昭和４８年度予算の大綱決る

例年のように〝つゆ入り〟と同時に本年も昭和48年度の予算攻勢に入った。本年は，沖縄の復帰があっただけに，48年度予算もこの整備が中心となることだろうが，当場としても老朽ふ化施設の整備促進が49年度までに終ると云う目標があるだけに，48年度は特に全面通過が期待され，その成果は今後に大きく影響するものと思われ，予算説明にも一段と力が入る。

６月21日に水産庁内の説明が終り，農林省に持ち込む態勢が出来上ったが，今回の規模は以下のとおりである。

１．老朽ふ化施設の整備促進

(1) 藻琴，薫別，浜中各事業場ふ化施設新，改設

(2) 藻琴，薫別，尻別，徳志別各事業場養魚池上家架設

(3) 敷生，幕別，渚滑，頓別，湧別，厚沢部各事業場揚水，導水及び放流設備の新，改設。

２．さくらます資源増大再生産対策

昭和46年度からの継続事業として，施設面では48年で終り，49年からは池中養成親魚からの採卵を行なうことになっている。

３．飼育事業の充実

稚魚の飼育放流による回帰効果が明確に現われて来ているので，48年度からは，３億尾飼育を４億尾に増して，健全な稚魚の育成放流につとめる。

４．稚魚輸送放流の積極的実施

従来は還元放流或は放流水路が不備なためそれを補うために実施して来たが，今後は環境条件を考慮した適期，適所の放流や未利用河川の利用による資源増加と，沿岸の振興対策等のために輸送放流を積極的に行なう。

５．ふ化用水の確保のための調査の実施

近年諸種の事情から，ふ化用水として利用している自然流下，地下水は共にその水量が減り，ふ化事業に大きな影響を与えており，この確保が急務となっているので，緊急度の高いところから用水の調査を実施する。

６．その他

本庁事務連絡旅費の新設。事業用光熱水料の事業費えの組替。種卵搬入機購入費の新設。養魚池用ふ化盆製作費の新設。河川環境調査費の新設。

（単位，千円）

科目	前年度予算額	48年度要求経過 当場要求額	水産庁査定額	農林省持込額
人当経費	268,437	274,134	274,334	274,951
運営事務費	22,254	26,401	26,202	26,669
事業費	123,826	183,637	171,445	172,124
事業運営費	52,218	69,046	68,436	69,115
親魚捕獲費	9,850	14,042	12,830	12,830
稚魚飼育費	41,117	55,478	56,327	56,327
降河稚魚保護費	4,341	5,054	4,715	4,715
河口通過稚魚観測費	2,171	2,567	2,448	2,448
種卵移殖費	2,039	2,088	2,075	2,075
べにざけ生産費	6,257	9,090	6,805	6,805
さくらます資源拡大再生産対策費	5,833	8,268	8,082	8,082
稚魚輸送放流費	0	11,420	6,148	6,148
広報宣伝費	0	3,005	0	0
ふ化用水水量等調査費	0	3,579	3,579	3,579
調査試験費	5,835	11,150	10,673	10,701
施設費	142,730	232,651	204,208	204,208
計	563,082	727,973	686,862	688,653